

橋村りかと声なき声をつむぐ会（後援会） ニュース

第25号 2026年8月発行



「生まれてきてくれて、ありがとう」と言える社会へー 10年目の追悼集会で橋村りかが投げかけた問い

後援会「橋村りかと声なき声をつむぐ会」の皆さま、いつもあたたかいご支援をいただき心より感謝申し上げます。2024年秋の国会において、旧優生保護法による強制不妊手術等の過ちに対し、衆参両院で公式な「反省と謝罪の決議」が全会一致で採択されました。政治が過去の過ちを認める大きな一歩となりましたが、私たちには「法案ができたから解決」「謝罪したから終わり」にできない切実な問いがあります。今年、19名もの尊い命が奪われた「津久井やまゆり園事件」から10年を迎えました。

橋村りかは、政治の立場とは別に、「にじいろの会」「子育て応援サークルハッピークローバー」「一般社団法人 百華」の代表として、そして重い障害を抱え医療的ケアを必要とした娘（ももか）を持つ一人の親として、熊本の地で仲間たちと手弁当でこの10年間、追悼集会を開催し続けてきました。

今回、橋村が追悼集会のメッセージや胸の内として明かした言葉から、今私

たちが向き合うべき「優生思想への危機感」をお伝えします。

■ 2016年、

仮設住宅で突き刺さったニュース

2016年4月の熊本地震で被災し、避難所生活を経て入居した仮設住宅で飛び込んできたのが、あの事件のニュースでした。「意思表示ができない、自分で自分のことができない人間は、生きている価値も意味もない」犯人が言い放ったその言葉は、橋村の娘の存在そのものを根底から否定するものでした。しかし、娘と共に育った地域の子どもたちは、娘のわずかな表情やサインに耳をすませ、「一緒にいたら、何を考えているか分かるよ」と言ってくれました。どれほど重い障害があろうと、人は誰もが心の中に豊かな思いを持っています。それにもかかわらず、容赦なく「切り捨てる理論」が社会に突きつけられた衝撃と激しい怒り、悲しみ。それが、この追悼集会をどんなに苦しくても10年間止めずに続けてきた原点でした。



■ 私たちは「生きるための条件」を 突きつけられていないか？

追悼集会を10年続け、橋村が今あらためて抱いているのは、「優生思想は決して過去のものでも、一部の異常な犯人の考えでもなく、今の社会全体に広がっているのではないか」という強い危機感です。事件から10年が経っても、社会は相変わらず人を能力や効率で切り刻み、分断を深めています。

- 「何かができなければ、
認めてもらえない」
- 「人の役に立たなければ、
ここにいさせてくれない」
- 「生産性がないものは、生きている価値がない」

私たちは日常の中で、知らず知らずのうちに「生きるための条件」を付けられ、互いの首を絞め合わされていないでしょうか。差別や排除、効率優先の社会は、命の尊厳を削り取っていきます。徳田弁護士の壮絶な半生と人権闘争のお話を伺いながら、橋村は「どんなに少数派であっても、正しいと思うことを恐れずに発信し続けること」「悩み迷いながらも、命の尊厳を諦めないこと」の大切さを再確認しました。

■ 橋村りかが 「熊本の現場」から目指すもの

国会で制度を動かすことと同じくらい大切なのは、私たちの足元にある「熊本の暮らしや教育の現場」から、この優生思想の芽を摘み取っていくことです。橋村は、子育て

支援や地域活動の現場から、次のことを皆さまと共に進めてまいります。どんな障害があっても「共に育ち、学ぶ」インクルーシブな環境づくり幼い頃から「分ける」のではなく、障害の有無に関わらず同じ地域で生きる当たり前を熊本で広げます。能力や生産性で人を測らない人権教育・啓発「生きているだけで価値がある」という当たり前の尊厳を、子どもたちや地域社会に伝え続ける学びの場をつくりまします。「声なき声」を拾い上げ、制度につなぐ活動旧優生保護法の被害者補償を含め、助けを求められずにいる高齢者や障害のある方々に、こちらから手を差し伸べる「アウトリーチ」のサポートを地域から強化します。

■ おわりに：

「生きていてくれて、ありがとう」と伝え合える社会へ追悼集会の節目を迎え、橋村はこう語っています。「生きるのに不器用で、散々後悔もしながらも、私が私として大切にされる社会を、あなたがあなたとして大切にされる社会を、夢見てもがき続けるのが私の人生なのかもしれません。この世に生まれてきてくれて、私たちと共に生きてくれてありがとう、すべての人に届けられる社会になるように、これからも走り続けます」「橋村りかと声なき声をつむぐ会」は、言葉にならない小さな声、削り取られそうな命の尊厳を一つひとつ丁寧につむぎ、政治と地域に届けてまいります。これからも、この熊本の地から「誰もがそこにいるだけで大切にされる社会」を共に作ってまいりましょう。引き続いてのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。